



1_3月25日に行われた「西保育園閉園式」で、園児や来賓の人たちと記念撮影 2_大川町に新設された「認可保育所あそびの森」は、白石で2番目の民設民営保育園。同園の開園で0歳児の受け入れ人数が増加し、平成27年4月1日現在、待機児童がゼロになりました 3_「西保育園閉園式」の最後に、参列者全員で「おおきなうた」を大合唱！ 慣れ親しんだ園との別れを惜しみました 4・5_「認可保育所あそびの森」の保育室内。園児たちの自主的な片付けの助けになればと、片付ける場所に絵本や玩具の写真を掲示するなどの工夫がされています 6_3月27日に行われた「認可保育所あそびの森落成式」。「野原で手をたたけ」を元気に歌うひかり幼稚園の園児たち 7_45年の歴史に幕を下ろした西保育園



45年の歴史に幕引き 西保育園が閉園

在園児は「認可保育所あそびの森」へ

西保育園閉園式

3月25日、老朽化のため3月末で閉園することになった西保育園で「白石市西保育園閉園式」が行われ、園児や保護者、地域の方々、関係者など約90人が出席しました。

式では、古山陽子園長が「西保育園は45歳になりました。これまでで1005人の園児たちが卒園していきました。この45年間、たくさんの保護者の方や園児、地域の皆さんなどに助けられながら、楽しい『思い出』という宝物を育んできました。この『思い出』を大切にしていきたい。そして、閉園を悲しむのではなく、子どもたちの新たな旅立ちと考えると、大きくはばたいていってほしい」とあいさつ。風間市長は「西保育園は閉園してしまいましたが、西保育園があったということをお忘れないでください」と述べました。

そして、園児全員が「西保育園ありがとうございました」と別れの言葉を述べ、2・3歳児は「はるがきたんだ」、4・5歳児は「さよならのうた」を合唱。出席者たちは、スライド上映された西保育園での思い出写真を鑑賞しながら、同園とのお別れ

を惜しんでいました。

西保育園は昭和44年10月、白石市内で4番目の保育園として建設され、昭和45年5月に開園しました。平成3年には0歳児保育をスタート。平成17年には特例延長保育を実施し、平成22年には0歳児保育の定員数を9人に増加するなど、共働き世帯などの増加に伴って、子育て環境の充実を図ってきました。

待機児童ゼロへ！ 保育サービスの充実

市は平成23年6月、保育園の保護者代表や子育て関係団体などで構成する「白石市立保育園のあり方検討委員会」を設置。8月、同委員会から「市は、民間事業者の活力を導入し、老朽化した東保育園・西保育園などの整備を図り、保育環境の充実と効率的な保育園運営を図るべきである」と、「今後の保育園のあり方に関する報告書」が市に提出されました。

平成23年11月、市は、「白石市立保育園の民営化方針」をまとめました。建築後40年以上経過した建物に変わる新しい建物を建てる場合、国の補助対象は社会福祉法人に限られ、市は補助を受けられないことが財政上の課題。限られた財源の中、安

全で快適な保育環境を確保し、待機児童の増加や多様化するニーズに柔軟に対応するため、新たな保育園の設置・運営に民間事業者の活力を導入して、保育環境の充実と効果的な保育園運営を図ることを決定しました。平成26年4月には、東保育園に代わって民設民営保育園第1号の「白石はるかぜ保育園」が開園しました。

新保育園の事業者選定に当たっては、公平性と透明性を確保し優良な民間事業者の参入を促すため、平成25年11月から12月の間に、保育園運営の基本理念や保育内容などを提案方式で公募。公募の結果、1法人から応募があり、保護者代表や子育て関係団体代表、学識経験者などからなる「事業者選考委員会」が、保育園運営の安定性や経営理念、保育内容などを書類や現地調査、プレゼンテーションなどを実施して厳正に審査し、移管先を「社会福祉法人星王会」（風間文静理事長）に決定しました。

園児の「自立」をお手伝い 認可保育所あそびの森が開園

3月27日、「認可保育所あそびの森新築工事落成式」が同園で行われました。式には同園の

運営を行う社会福祉法人星王会の職員や関係者など約50人が出席。風間理事長は「このあそびの森は、ひかり幼稚園の姉妹園と考えており、ひかり幼稚園同様、『自立』を保育理念に、園児たちが何にでも興味を持ち、自分のことは自分でやりたがるように施設整備してきました。この理念のもと、園児たちの健全やかな成長をお手伝いすることで、少しでも市の保育行政に寄与していきたい」とあいさつ。風間市長は「本市の第5次総合計画では、安全で安心な保育の実現を掲げています。この園が、地域全体で安心な保育を支える拠点となることを期待します」と期待を寄せていました。

園舎は木造平屋の延べ床面積857㎡で、総事業費は約2億5,000万円。園舎を取り囲むようにオリーブやカシの木など約40本が植えられ、「森」をイメージしています。定員は0〜5歳児の90人。0〜2歳児と3〜5歳児に分けられた2つの保育室には仕切りがなく、園児たちが興味を持った遊びを自由に行えるような工夫が施されています。

同園は老朽化した西保育園の代替施設で、新たに0歳児の定員を12人とし、4月からスタートを切りました。